

大阪経済の情勢

(平成25年12月指標を中心に)

平成 26 年 2 月
大阪府商工労働部
(大阪産業経済リサーチセンター)

「大阪経済は、緩やかに回復している」

需要面では、個人消費は緩やかに回復しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。大型小売店販売額、コンビニ販売額、家電販売額、新車販売台数のすべてで増加した。家計消費支出(近畿)は増加。投資は緩やかに持ち直している。住宅投資、非居住用建設投資はともに増加した。公共投資は増加。輸出は持ち直している。輸出額は10ヶ月連続で増加し、主要国向けではすべての地域で増加。輸入額は12ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空、大阪港ともに増加。

供給面では、生産動向は持ち直している。大阪府(11月)は、生産、出荷ともに上昇。近畿の生産(11月)は低下、全国の生産(12月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。雇用は着実に改善している。所定外労働時間は増加し、近畿の失業率は改善。有効求人倍率、新規求人倍率はともに上昇。倒産は、件数は改善、負債金額は悪化。

先行きについては、景気動向指数(先行)は上昇。今後は、海外経済の動向等に引き続き注意が必要。

		需要							
	総合	消費				投資		貿易・貨物	
	一致CI(大阪)	大型小売店販売(大阪)	コンビニ販売(近畿)	家電販売(近畿)	新車販売(大阪)	新設住宅着工(大阪)	建築物着工(大阪)	輸出(近畿)	関空取扱貨物量
12月	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
11月	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↓

		供給				その他
	生産	雇用		倒産	観光	
	生産指数(大阪)	生産指数(全国)	有効求人倍率(大阪)	失業率*(近畿)	倒産件数*(大阪)	関空外国人旅客
12月	↑	↑	↑	↑	↑	↑
11月	↑	↓	↑	↑	↓	↑

※前年同月と比較し、上向き矢印は「景況改善」、下向き矢印は「景況悪化」。ただし、一致CI、生産指数、有効求人倍率は季節調整済みのため、前月との比較。失業率と倒産件数は、減少・低下が景況改善となり、上向き矢印となる。

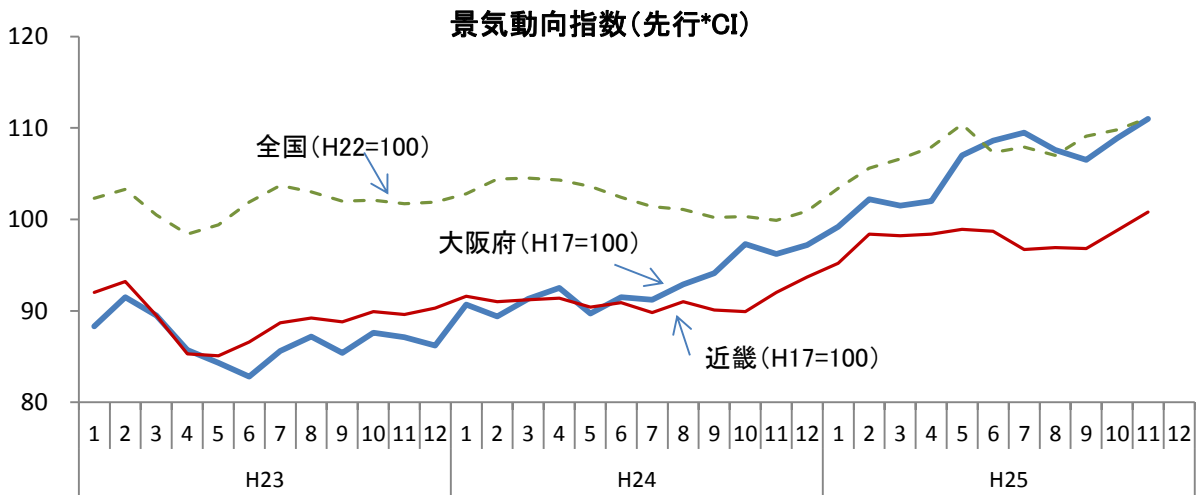
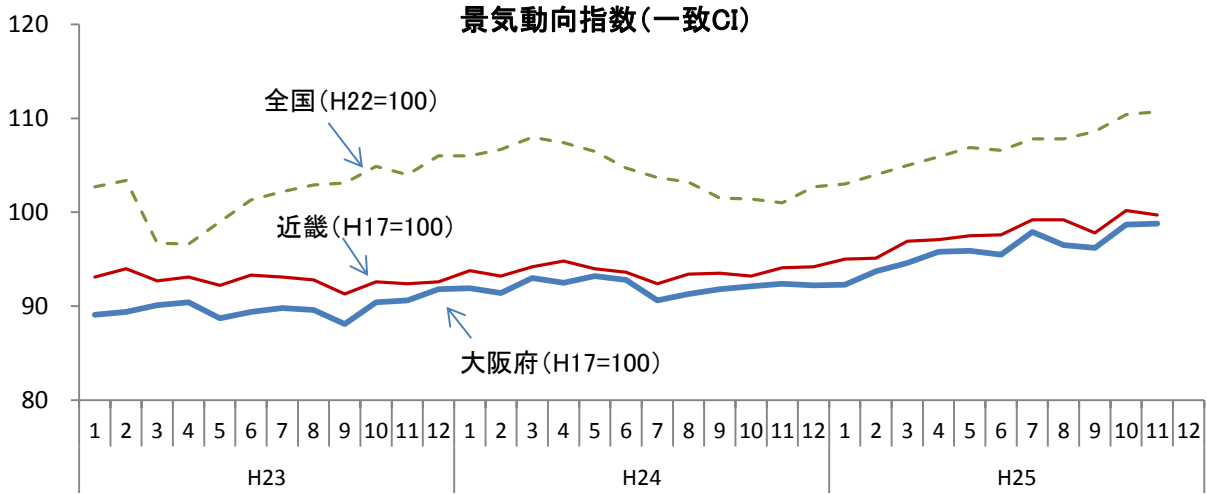
(参考)他機関の総括判断

	前回(25年12月公表分) (25年10月指標中心)	今回(26年1月公表分) (25年11月指標中心)
内閣府 「月例経済報告」	景気は、緩やかに回復しつつある。	景気は、緩やかに回復している。
近畿経済産業局 「近畿経済の動向」	近畿地域の経済は、着実に持ち直している。	近畿地域の経済は、着実に持ち直している。
日本銀行大阪支店 「近畿地域金融経済概況」	近畿地域の景気は、緩やかに回復している。	近畿地域の景気は、緩やかに回復している。

※以下、Pは速報値を表す

[総合]

○景気動向指数(CI)【大阪府(11月)は一致CI、先行CIともに上昇。大阪府(一致CI)では、主に「有効求人倍率」が上昇に寄与。近畿(11月)は一致CIは低下、先行CIは上昇。全国(11月)の一致は上昇。】



(資料)大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」
 ※先行CIは、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

一致CI

	H25年10月	11月	12月
大阪府	98.7	P 98.8	
近畿	100.2	P 99.7	
全国	110.4	110.7	

先行CI

	H25年10月	11月	12月
大阪府	108.9	P 111.0	
近畿	98.8	P 100.8	
全国	109.8	111.1	

一致CIの個別系列の寄与度*(大阪府、11月速報)

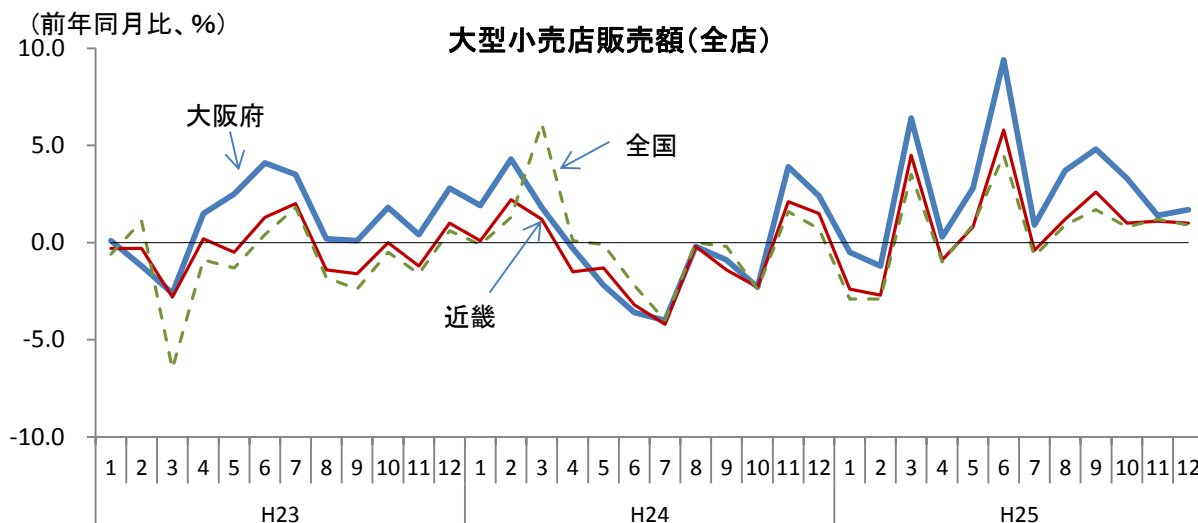
百貨店売場面 積当たり販売額	大阪税関管内 輸入通関額	製造工業 生産指数	生産財 出荷指数	関西大口電力 使用量(合計)	有効求人倍率	所定外労働時間 指数(製造業)
▲0.01	▲0.22	0.22	0.43	▲0.45	0.70	▲0.58

※寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

[需要] 消費

個人消費は緩やかに回復しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。大型小売店販売額、コンビニ販売額、家電販売額、新車販売台数のすべてで増加した。家計消費支出(近畿)は増加。

○大型小売店販売額(全店)【10ヶ月連続の増加。百貨店販売額は14ヶ月連続の増加。】



(資料)近畿経済産業局「大型小売店販売状況」、経済産業省「商業販売統計」

大型小売店販売額(全店)

		H25年10月	11月	12月
販売額(億円)	大阪府	1,397	1,519	P 1,961
前年比(%)	大阪府	3.3	1.4	P 1.7
	近畿	1.0	1.1	P 1.0
	全国	0.8	1.2	P 0.9

大型小売店販売の商品別の主な増減

(大阪府、全店、前年同月比(%)、12月速報)

衣料品	▲0.6
身の回り品	9.1
飲食料品	1.0
家具・家電・家庭用品	2.5
その他の商品	4.1
食堂・喫茶	▲15.3

百貨店(大阪府)

		H25年10月	11月	12月
販売額(億円)		703	802	P 1,071
前年比(%)		5.7	1.8	P 3.3

スーパー(大阪府)

		H25年10月	11月	12月
販売額(億円)		694	716	P 890
前年比(%)		1.0	1.0	P ▲0.3

大阪府内大型小売店へのヒアリングより(12月)

12月は、中旬までの高気温からインナー、アウター等の季節衣料品が苦戦するも、下旬は気温も低下し、コート、マフラーなどが順調に伸びた。また、クリスマス・ボーナス商戦が好調なほか、時計やジュエリー等の一部高額商品も例年以上に伸張した。ファミリーレストランでは、食べ放題メニューが人気で、週末のディナータイムの客数が伸びたほか、宴会予約が2桁増となった企業もある。中小電器店では、冷蔵庫や洗濯機等の白物家電で駆け込み需要がみられた。

○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は10ヶ月連続の増加。】

		H25年10月	11月	12月
販売額(億円)	近畿	1,230	1,189	P 1,269
前年比(%)	近畿	5.3	6.0	P 5.8
	全国	4.6	5.9	P 4.9

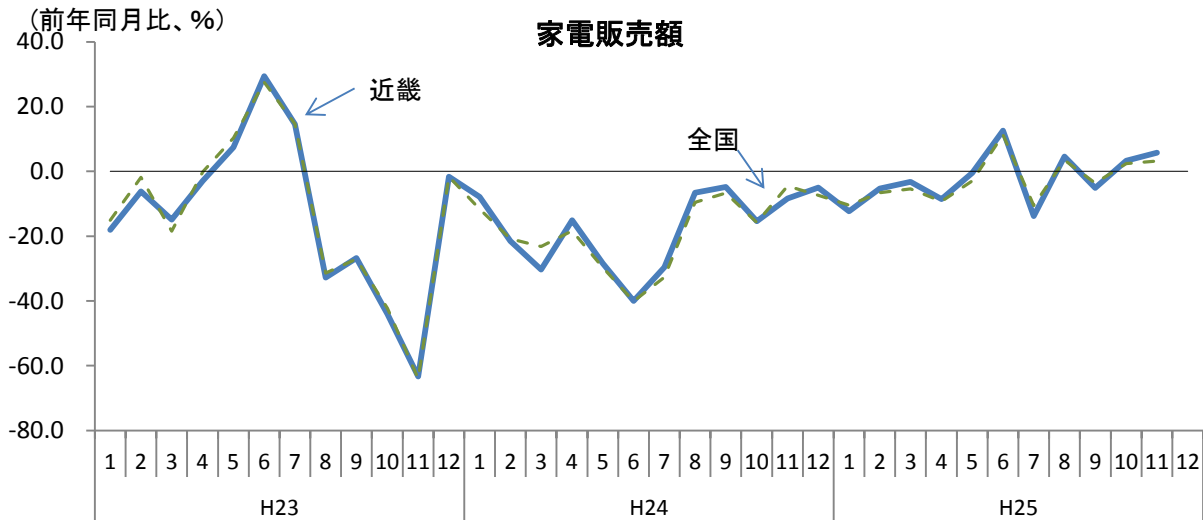
○家計消費支出【近畿は5ヶ月連続の増加。】

		H25年10月	11月	12月
円	近畿	327,567	316,135	354,459
前年比(%)	近畿	11.0	12.1	0.7
	全国	0.4	0.3	▲0.3

(資料)総務省統計局「家計調査」 ※二人以上の世帯うち勤労者世帯、一世帯当たりの名目。

[需要] 消費

○家電販売額【近畿(11月)は2ヶ月連続の増加。「エアコン」「冷蔵庫」などが前年を上回った。】



(資料) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

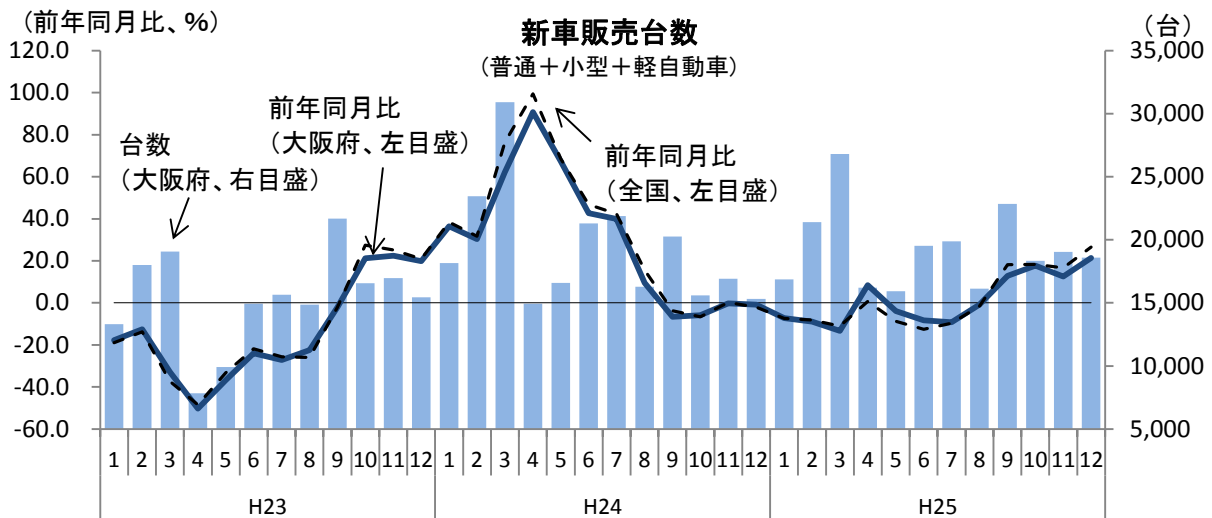
※平成23年4月分よりデータ集計対象企業が変更されたため、前後のデータと連続しない。

商品別の主な増減(近畿、11月)

		H25年10月	11月	12月
前年比 (%)	近畿	3.3	5.8	
	全国	2.4	3.2	

「携帯電話」(前年同月比12.8%減)が前年を下回ったものの、「エアコン」(同30.9%増)、「冷蔵庫」(同20.3%増)などが前年を上回った。

○新車販売台数【4ヶ月連続の増加。】



(資料) (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会

		H25年10月	11月	12月
販売額(台)	大阪府	18,339	19,037	18,586
前年比 (%)	大阪府	17.7	12.6	21.4
	全国	18.4	16.7	26.5

車種別の増減

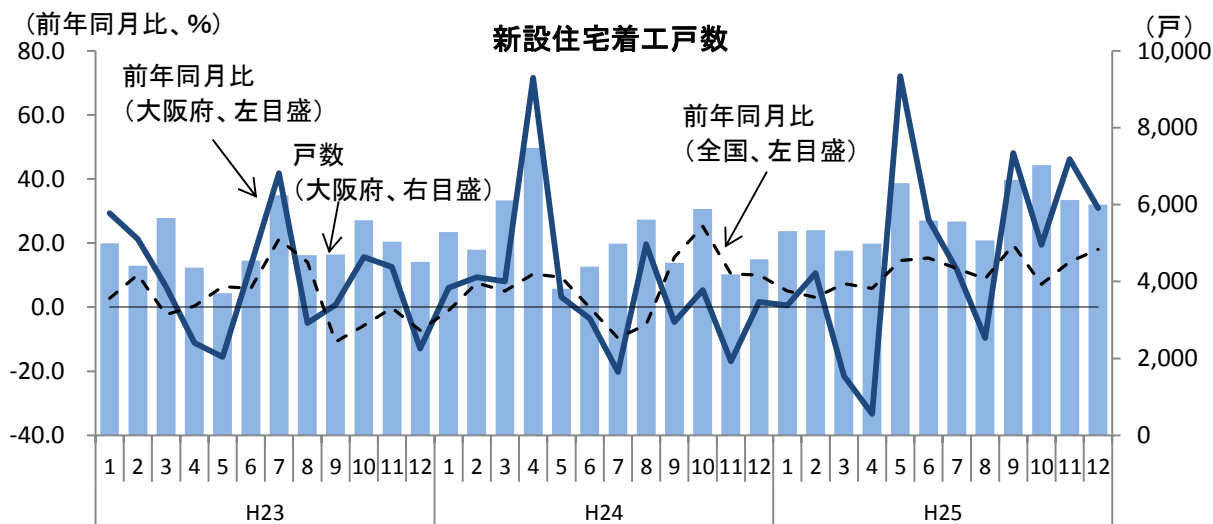
(大阪府、前年同月比(%)、12月)

普通車	小型車	軽自動車
19.5	9.9	38.0

[需要] 投資

投資は緩やかに持ち直している。住宅投資、非居住用建設投資はともに増加した。公共投資は増加。

○新設住宅着工戸数【4ヶ月連続の増加。】



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

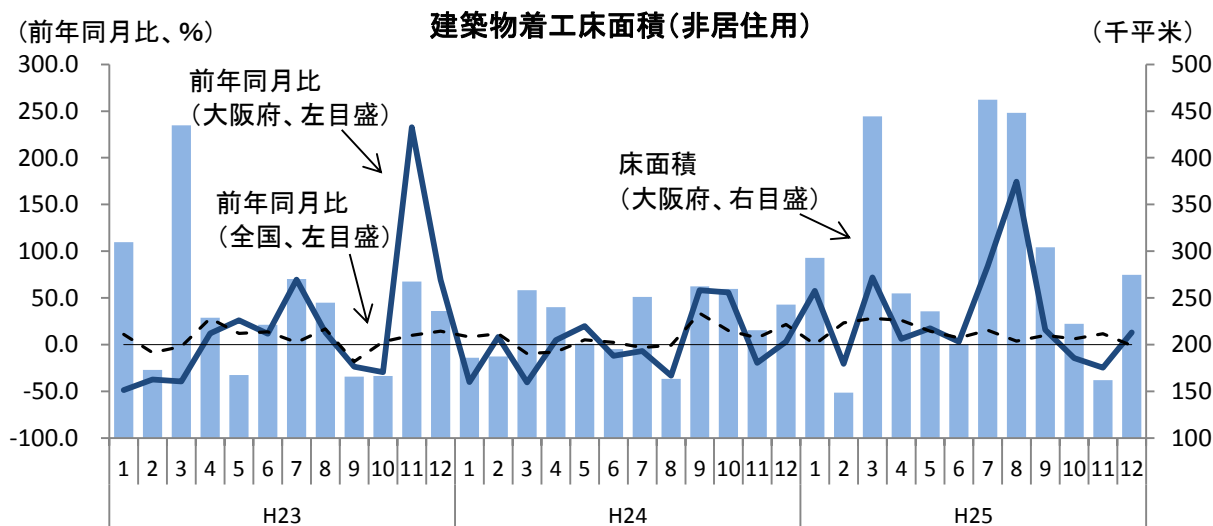
		H25年10月	11月	12月
戸数	大阪府	7,027	6,119	5,998
前年比 (%)	大阪府	19.4	46.2	30.9
	全国	7.1	14.1	18.0

利用者関係別の増減

(大阪府、前年同月比(%), 12月)

持家	貸家	分譲
20.7	54.1	12.5

○建築物着工床面積(非居住用)【3ヶ月ぶりの増加。「宿泊業、飲食サービス業用」、「製造業用」などが増加。】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

		H25年10月	11月	12月
千m ²	大阪府	222	162	275
前年比 (%)	大阪府	▲14.5	▲24.8	13.0
	全国	6.0	11.5	▲1.1

着工床面積の主な増減

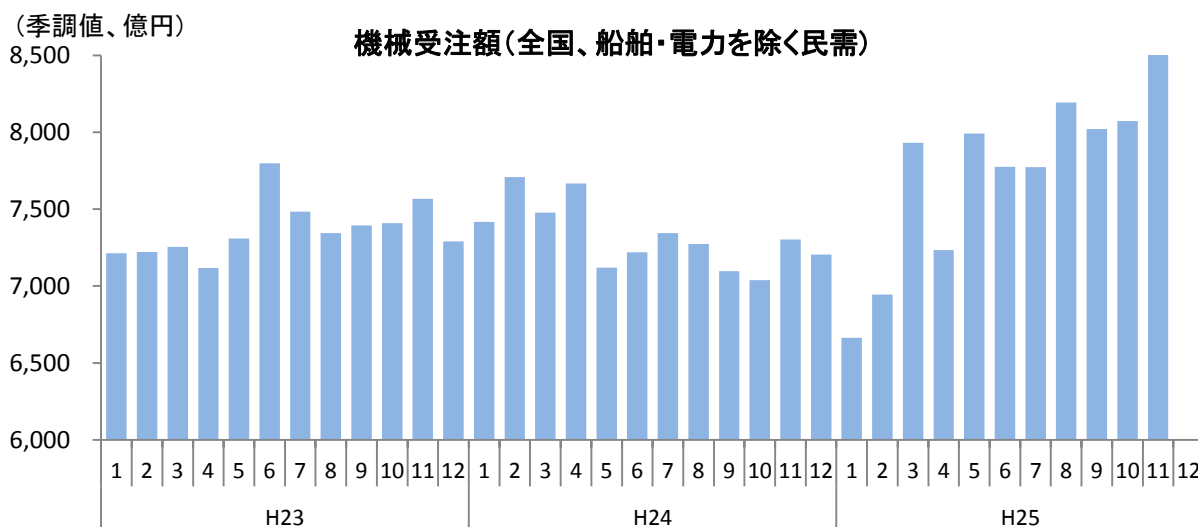
(大阪府、前年同月比の寄与度※(%), 12月)

増加	宿泊業、飲食サービス業(18.4)、 製造業(13.5)、 その他のサービス業(11.6)
減少	教育、学習支援業(▲17.3)、 医療、福祉用(▲13.8)

※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。

[需要] 投資

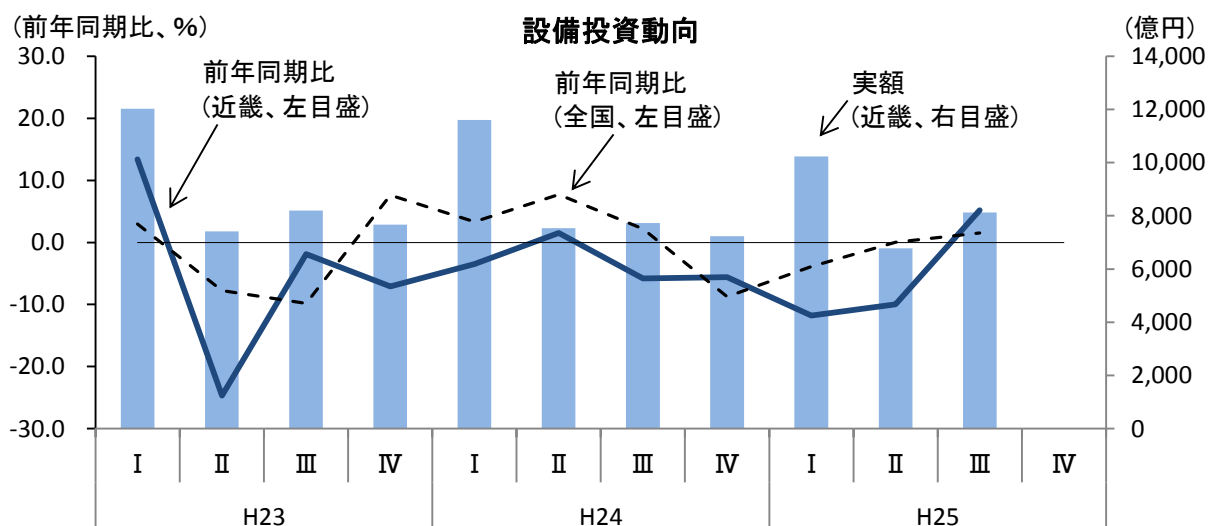
○機械受注額【11月(全国)は増加。「製造業」、「非製造業」とも増加。】



(資料)内閣府「機械受注統計調査」

	H25年10月	11月	12月
全国(億円)	8,072	8,826	

○設備投資動向【7~9月期(近畿)は増加。「製造業」は減少、「非製造業」は増加。】



(資料)近畿財務局「法人企業統計」、財務省「法人企業統計」

※資本金10億円以上、全産業(金融・保険業を除く)。ソフトウェアを含む設備投資。

		H25年1~3月	4~6月	7~9月
億円	近畿	10,237	6,778	8,123
前年同期比(%)	近畿	▲11.8	▲10.0	5.2
	全国	▲3.9	0.0	1.5

○公共工事請負金額【9ヶ月連続の増加。】

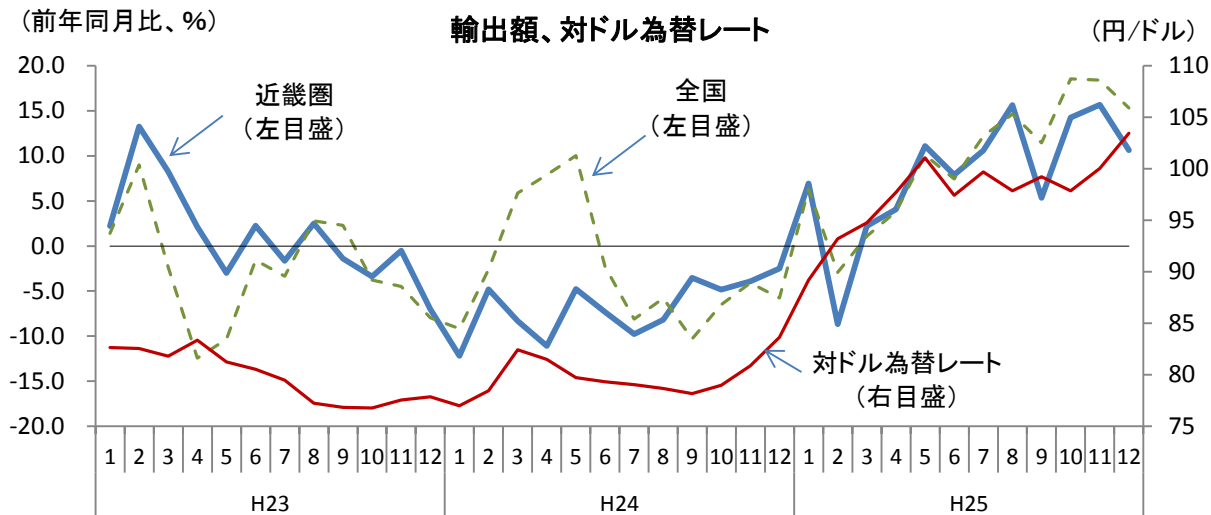
		H25年10月	11月	12月
億円	大阪府	347	315	458
前年比(%)	大阪府	6.5	23.1	140.4
	全国	3.5	4.9	7.5

(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事前払保証統計」

[需要] 貿易・貨物

輸出は持ち直している。輸出額は10ヶ月連続で増加し、主要国向けではすべての地域で増加。輸入額は12ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空、大阪港ともに増加。

○輸出額【10ヶ月連続の増加。「鉄鋼」、「有機化合物」などが増加。主要国・地域向けでは、すべての地域で増加。】



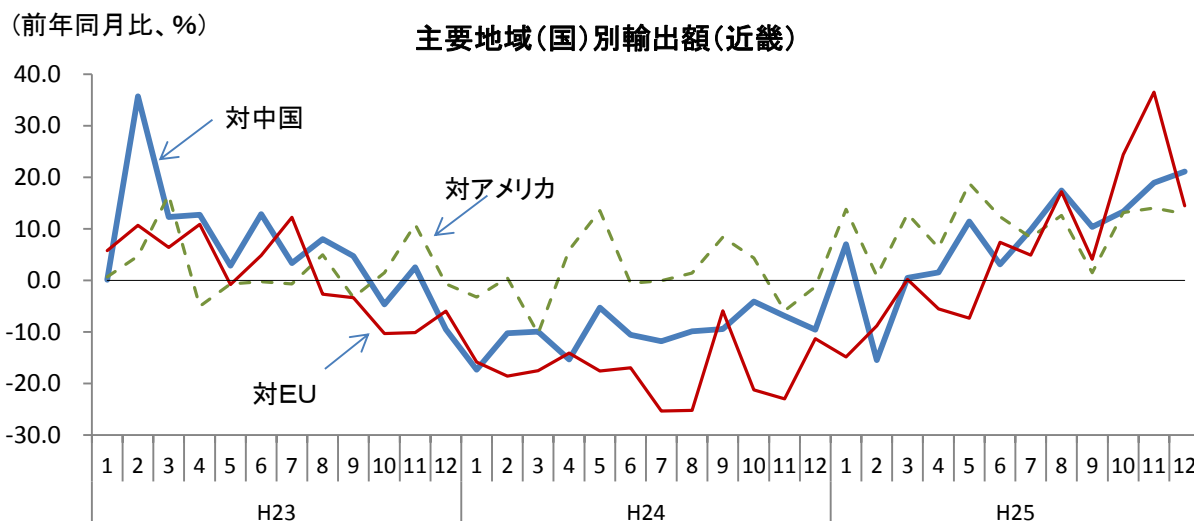
(資料)大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

		H25年10月	11月	12月
輸出額(億円)	近畿	12,848	12,427	P 13,093
前年比 (%)	近畿	14.3	15.7	P 10.6
	全国	18.6	18.4	P 15.3
為替レート(円/ドル)		97.85	100.03	103.46

品目別の主な増減
(近畿、前年同月からの増減額順、12月)

増加	鉄鋼、有機化合物、事務用機器
減少	ガラス及び同製品、原動機、電池



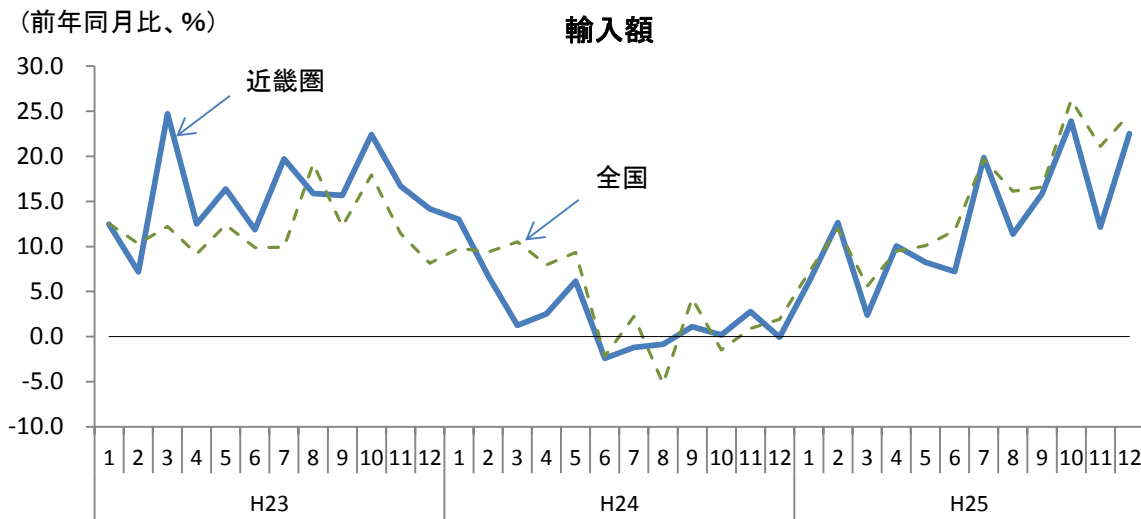
(資料)大阪税関「貿易統計」

主要地域別輸出額の増減(近畿、前年同月比(%))、12月)

アジア(含む中国)	8.8	10ヶ月連続の増加
中国	21.1	10ヶ月連続の増加
EU	14.5	7ヶ月連続の増加
アメリカ	12.9	12ヶ月連続の増加

[需要] 貿易・貨物

○輸入額【12ヶ月連続の増加。「天然ガス及び製造ガス」、「通信機」などが増加。】



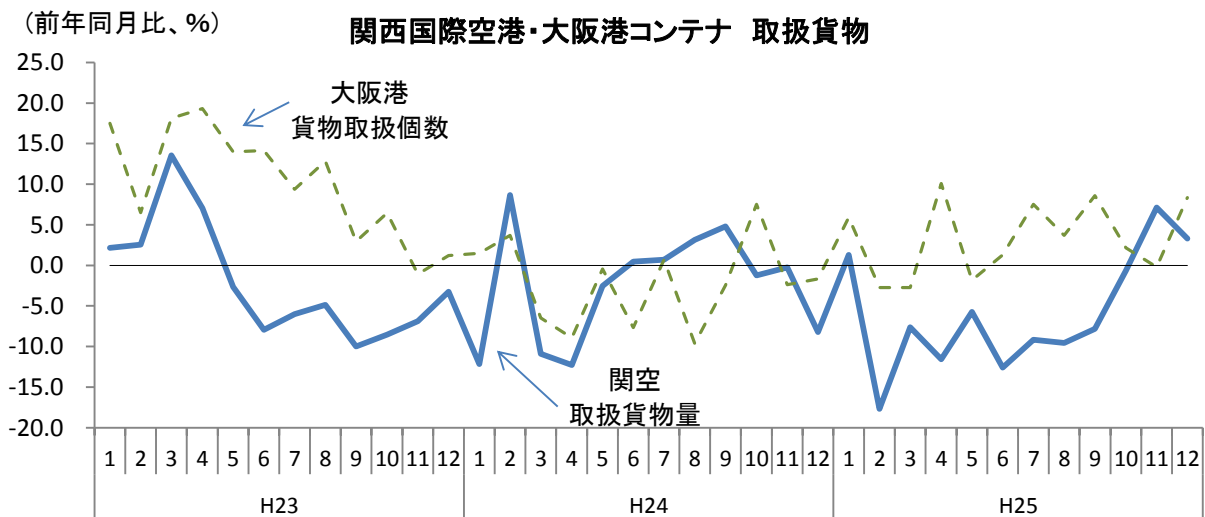
(資料)大阪税関「貿易統計」

		H25年10月	11月	12月	品目別の主な増減 (近畿、前年同月から増減額順、12月)	
輸入額(億円)	近畿	13,970	P 13,472	P 13,844	増加	天然ガス及び製造ガス、通信機、 半導体等電子部品
前年比 (%)	近畿	23.9	P 12.2	P 22.5	減少	原油及び粗油、がん具及び遊戯用具
	全国	26.2	P 21.1	P 24.7		

主要地域別輸入額の増減(近畿、前年同月比(%))、12月)

アジア(含む中国)	22.2	12ヶ月連続の増加
中国	23.3	12ヶ月連続の増加
EU	32.2	2ヶ月ぶりの増加
アメリカ	6.6	4ヶ月連続の増加

○関空取扱貨物量【2ヶ月連続の増加】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【2ヶ月ぶりの増加。】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」、大阪市「港湾統計」

※関西国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数はTEUで、外貿の実入+空の合計。

※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示す。

関空取扱貨物量		大阪港コンテナ貨物取扱個数			
	H25年10月	11月	12月		
千トン	59.6	P 63.0	P 60.7		
前年比(%)	▲0.7	P 7.1	P 3.3		
			H25年10月	11月	12月
千TEU		P 201	PP 187	PP 198	
前年比(%)		P 2.1	PP ▲0.2	PP 8.4	

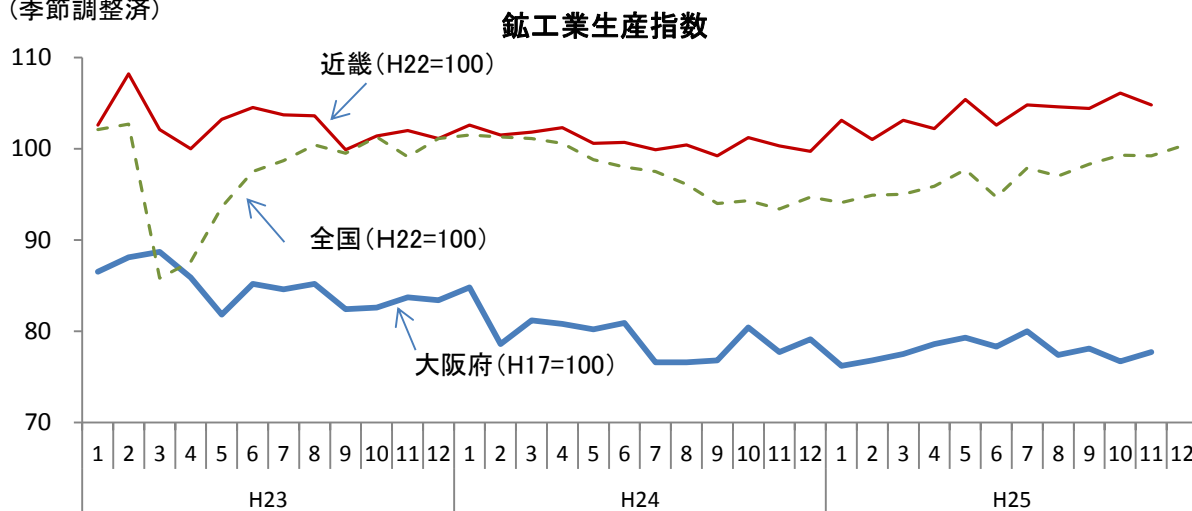
※PPは速報値

[供給] 生産

生産動向は持ち直している。大阪府(11月)は、生産、出荷ともに上昇。近畿の生産(11月)は低下、全国の生産(12月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。

○鉱工業生産指数【大阪府(11月)は2ヶ月ぶりの上昇。「鉄鋼」、「化学」などが上昇。近畿(11月、鉱工業)は2ヶ月ぶりの低下。全国(12月、鉱工業)は2ヶ月ぶりの上昇。】

(季節調整済)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。

季調済	H25年10月	11月	12月
大阪府 (H17=100)	76.7	P 77.7	
近畿 (H22=100)	106.1	104.8	
全国 (H22=100)	99.3	99.2	P 100.3

産業別の主な変動
(大阪府、前月比(%)、寄与度順、11月速報)

上昇	鉄鋼(6.4):普通鋼冷延広幅帯鋼、小型棒鋼 化学(1.8):化粧品、カプロラクタム 精密機械(43.1):動的・構造物試験機
低下	金属製品(▲6.8):橋りょう、鉄骨 電子部品・デバイス(▲7.0):液晶素子 一般機械(▲1.5): シヨベル系掘削機械、はん用内燃機関

○鉱工業出荷指数【大阪府(11月)は2ヶ月ぶりの上昇。「化学」、「石油・石炭製品」などが上昇。近畿(11月)は3ヶ月連続の上昇。全国(12月)は2ヶ月ぶりの上昇。】

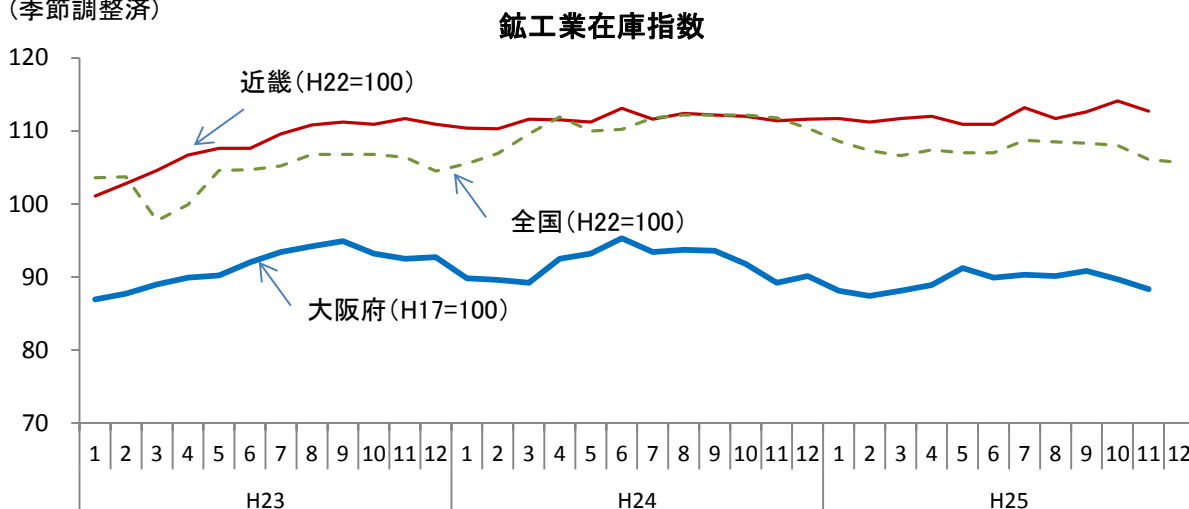
季調済	H25年10月	11月	12月
大阪府 (H17=100)	74.0	P 78.2	
近畿 (H22=100)	101.8	102.8	
全国 (H22=100)	99.1	99.1	P 99.7

(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。

[供給] 生産

○鉱工業在庫指数【大阪府(11月)は2ヶ月連続の低下。「一般機械」、「化学」などが低下。近畿(11月)は2ヶ月ぶりの低下。全国(12月)は5ヶ月連続の低下。】

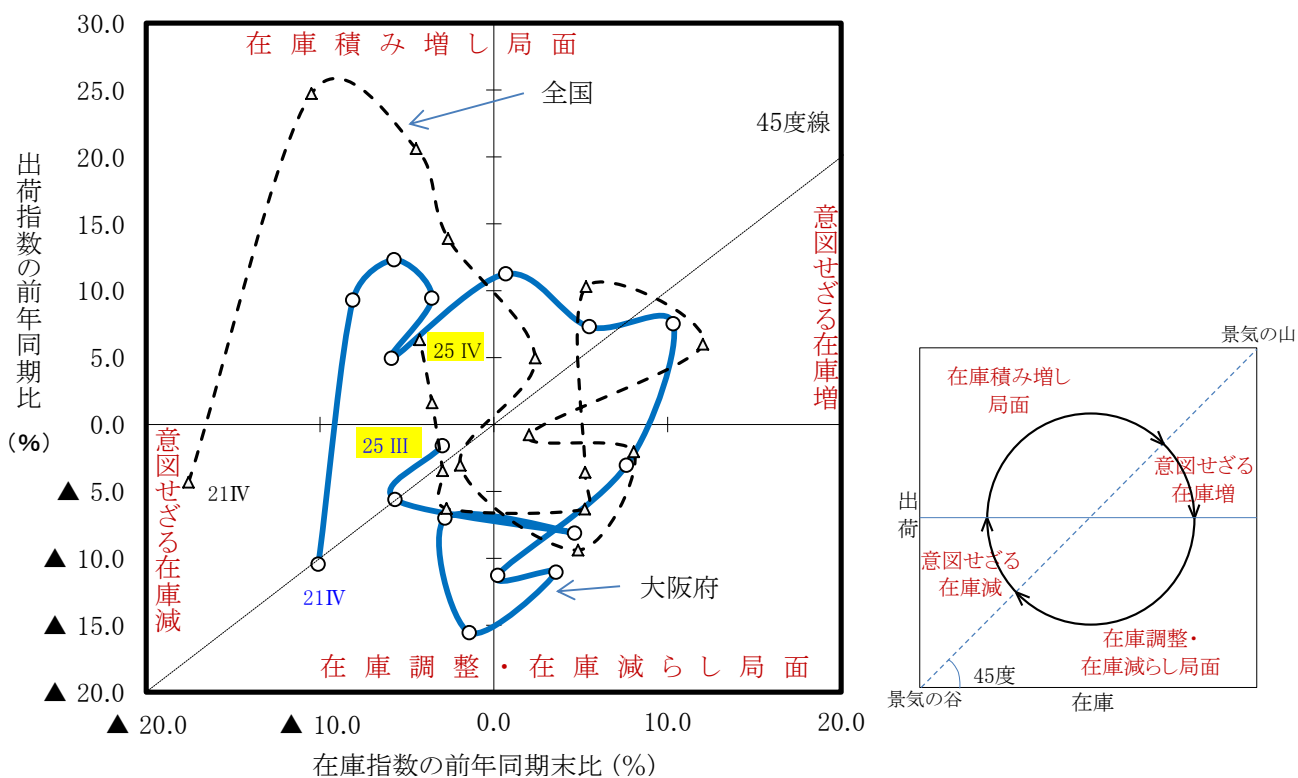
(季節調整済)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。

季調済	H25年10月	11月	12月
大阪府(H17=100)	89.7	P 88.3	
近畿(H22=100)	114.1	112.7	
全国(H22=100)	108.0	106.1	P 105.7

○在庫循環図【大阪府は意図せざる在庫減局面。全国は在庫積み増し局面。】



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」

※出荷指数は原数値の四半期平均、在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。

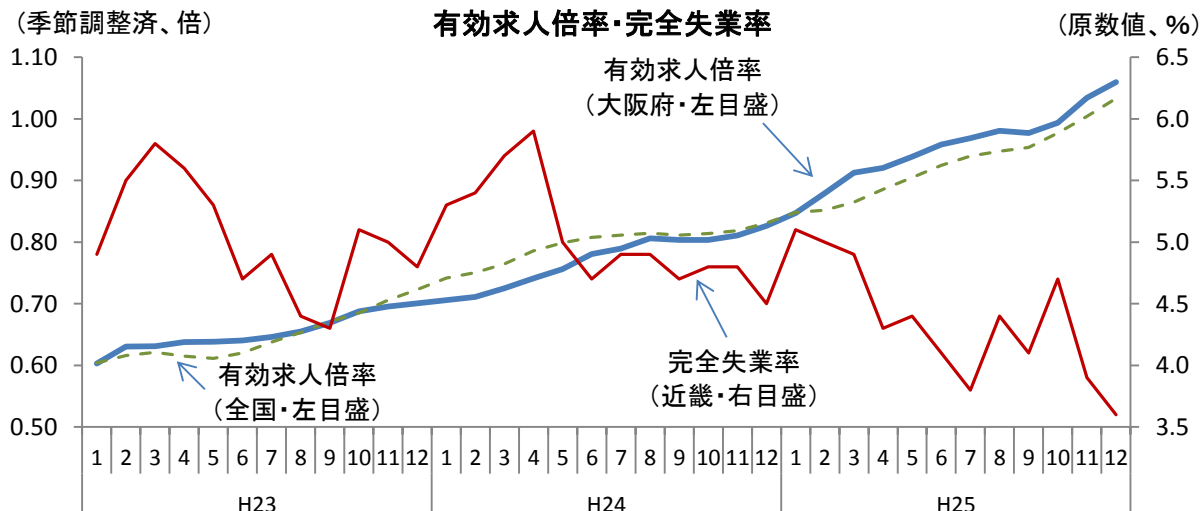
大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

[供給] 雇用・倒産

雇用は着実に改善している。所定外労働時間は増加し、近畿の失業率は改善。有効求人倍率、新規求人倍率ともに上昇。倒産は、件数は改善、負債金額は悪化。

○完全失業率【近畿は前年同月差で15ヶ月連続の低下(改善)】

有効求人倍率【大阪は3ヶ月連続の上昇】、新規求人倍率【大阪は4ヶ月連続の上昇】



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」、総務省統計局「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

完全失業率(近畿、原数値)

	H25年10月	11月	12月
%	4.7	3.9	3.6
前年同月差	▲0.1	▲0.9	▲0.9

完全失業率(全国、季節調整値)

	H25年10月	11月	12月
%	4.0	4.0	3.7
前月差	0.0	0.0	▲0.3

大阪府、近畿及び全国の完全失業率(原数値、%)

	H25年1~3月	4~6月	7~9月
大阪府	5.4	5.2	4.4
近畿	5.0	4.3	4.1
全国	4.3	4.2	4.0

(資料)大阪府統計課「大阪の就業状況」、総務省統計局「労働力調査」

有効求人倍率(季節調整値、倍)

	H25年10月	11月	12月
大阪府	0.99	1.03	1.06
全国	0.98	1.00	1.03

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」 ※パートを含む。

新規求人倍率(季節調整値、倍)

	H25年10月	11月	12月
大阪府	1.63	1.64	1.78
全国	1.59	1.56	1.64

若年者の有効求人倍率(大阪府、倍、12月)

24歳以下	1.18
25~34歳	1.17

(資料)大阪労働局「労働市場月報」

※就職機会積み上げ方式、パートを含む

新規求人数の主要産業別の増減

(大阪府、前年同月比(%))、12月)

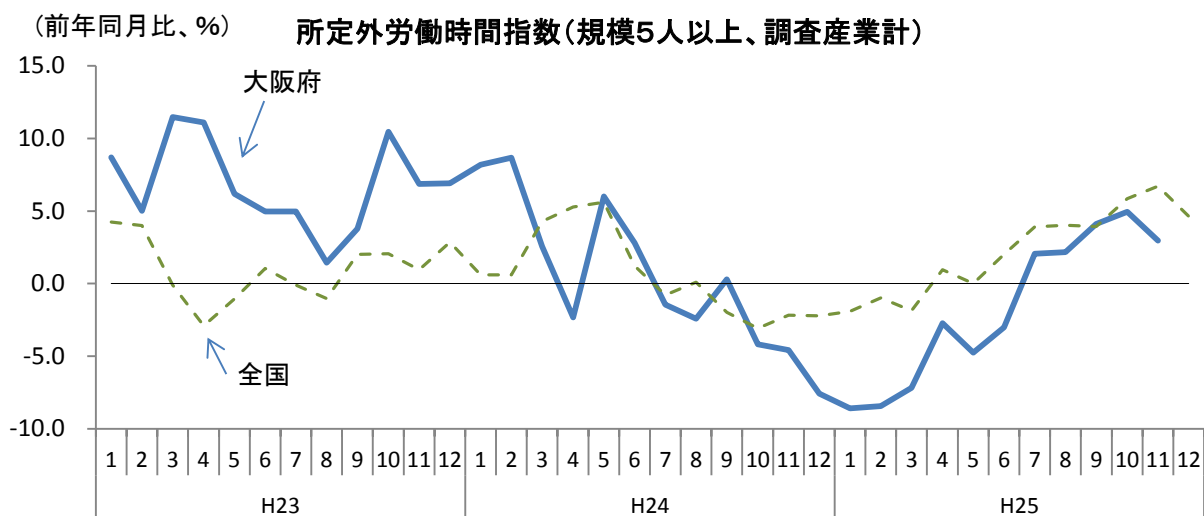
建設業	26.8
製造業	16.5
卸売業、小売業	14.4
宿泊業、飲食サービス業	▲10.6
医療、福祉	9.2

(資料)大阪労働局「求人・求職状況速報」

※新規求人数の増減は原数値での比較

[供給] 雇用・倒産

○所定外労働時間指数【大阪府(11月)は5ヶ月連続の増加。】



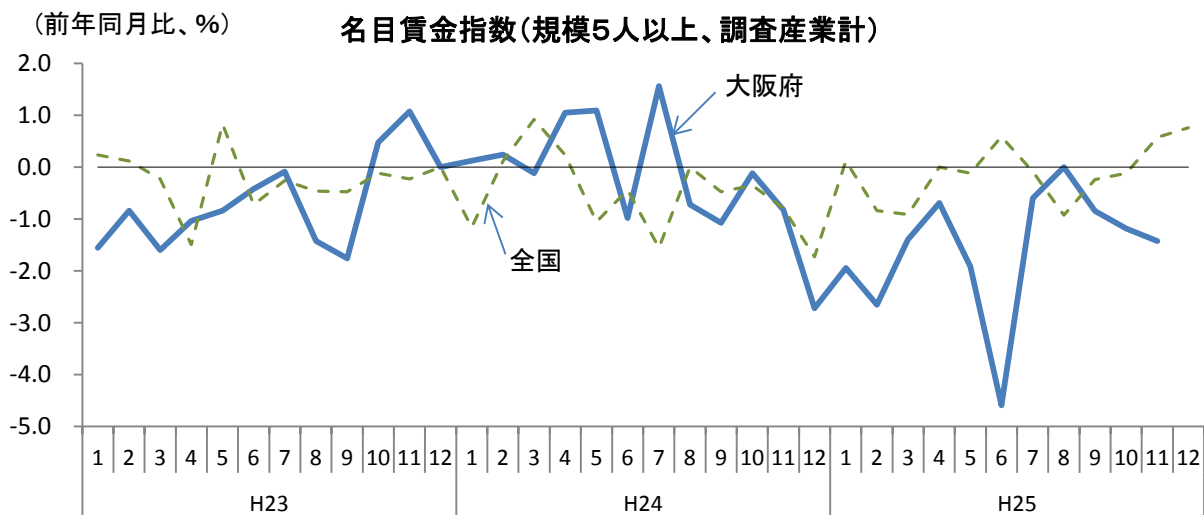
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」
 ※事業所規模5人以上、前年同月比は労働時間指数(H22=100)による。

		H25年10月	11月	12月
H22=100	大阪府	110.4	111.5	
前年比 (%)	大阪府	4.9	3.0	
	全国	5.8	6.7	P 4.6

産業別所定外労働時間の主な増減 (大阪府、前年同月比(%)、11月)

増加	生活関連サービス業、娯楽業(68.4) 卸売業、小売業(18.7) 情報通信業(15.3)
減少	教育・学習支援業(▲27.0) 電気・ガス・熱供給・水道業(▲19.1) 不動産業、物品賃貸業(▲19.1)

○名目賃金指数【大阪府(11月)は3ヶ月連続の減少。】



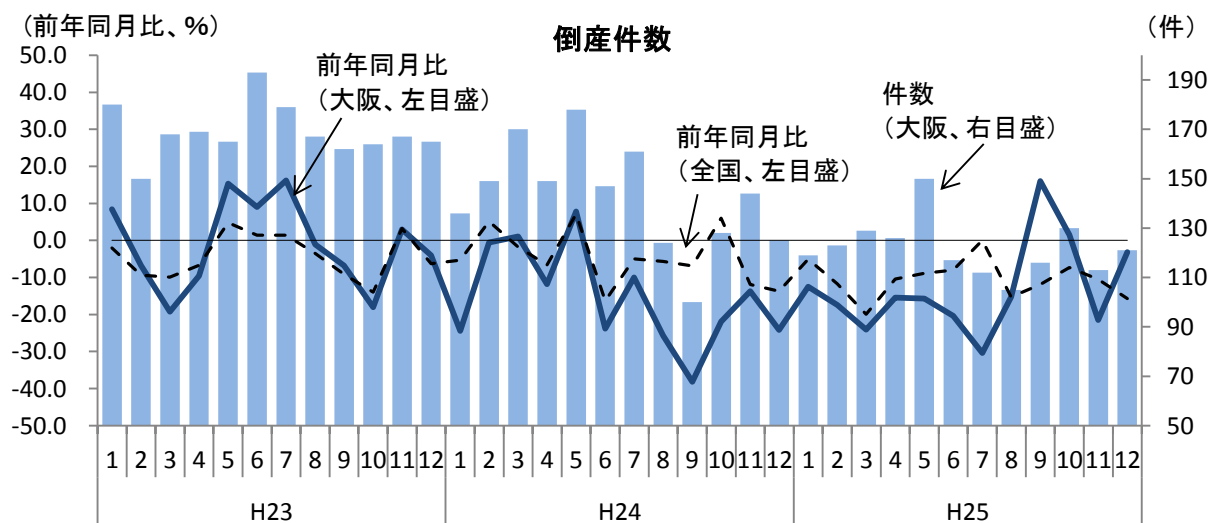
(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」
 ※前年同月比は名目賃金指数(H22=100)による。

		H25年10月	11月	12月
現金給与総額(円)	大阪府	282,308	281,326	
前年比 (%)	大阪府	▲1.2	▲1.4	
	全国	▲0.1	0.6	P 0.8

※前年比は名目賃金指数(H22=100)による。

[供給] 雇用・倒産

○倒産【倒産件数は2ヶ月連続の減少(改善)、負債金額は3ヶ月ぶりの増加(悪化)。】



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

倒産件数

		H25年10月	11月	12月
件	大阪府	130	113	121
前年比 (%)	大阪府	1.5	▲21.5	▲3.2
	全国	▲7.3	▲10.5	▲15.7

負債金額

		H25年10月	11月	12月
億円	大阪府	144	113	174
前年比 (%)	大阪府	▲18.1	▲61.7	30.2
	全国	▲35.0	▲47.7	▲35.5

主要業種の倒産件数(大阪府)

	H25年10月	11月	12月
建設業	31	24	24
製造業	24	18	16
卸売業	24	23	19
小売業	15	7	18
サービス業	25	29	30

主な倒産(大阪府、12月)

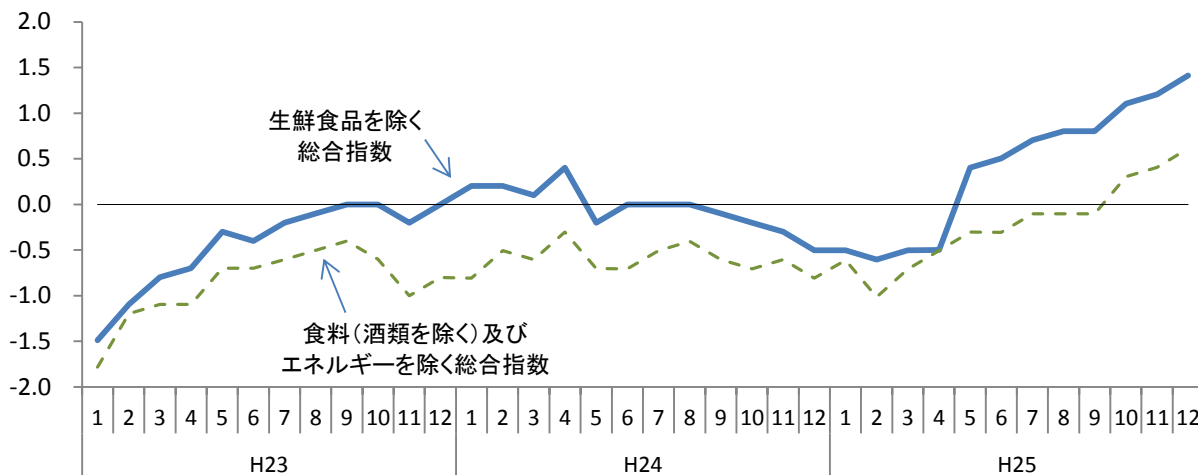
業種	負債額 (百万円)	倒産原因
持株会社	10,300	放漫経営
電子部品製造ほか	1,000	販売不振
あん、製菓原料製造ほか	900	設備投資過大
ソフトウェア開発	664	販売不振
アクセサリ、雑貨小売	478	既往のシワ寄せ

[その他] 物価

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は8ヶ月連続で上昇。「光熱・水道」、「食料」が上昇に寄与。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は3ヶ月連続で上昇。】

(前年同月比、%)

消費者物価指数(大阪市)



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」 ※H22=10000

生鮮食品を除く総合指数(H22=100)

		H25年10月	11月	12月
指数	大阪市	100.8	100.7	P 100.6
前年比 (%)	大阪市	1.1	1.2	P 1.4
	全国	0.9	1.2	1.3

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数(H22=100)

		H25年10月	11月	12月
指数	大阪市	98.9	98.8	P 98.7
前年比 (%)	大阪市	0.3	0.4	P 0.6
	全国	0.3	0.6	0.7

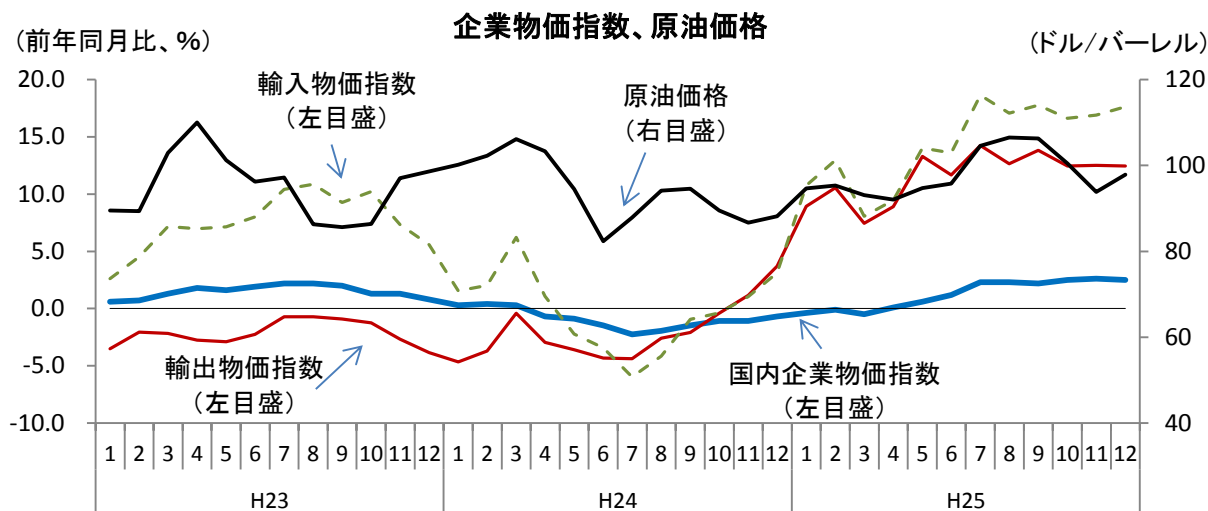
主に変動した分類

(大阪市、前年同月比(%)、寄与度順、12月速報)

上昇	光熱・水道(8.7):電気代、他の光熱(灯油) 食料(2.3):魚介類(さけ、えび、ほたて貝)、 野菜・海藻(キャベツ、かぼちゃ、さといも) 諸雑費(3.9):身の回り用品(ハンドバッグ(輸 入品)、指輪、通学用かばん)、他の諸雑 費(傷害保険料、保育所保育料)
低下	住居(▲0.4):特になし

[その他] 物価

○企業物価指数【国内企業物価指数と輸入物価指数は上昇、輸出物価指数は減少。原油価格は上昇。】



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、IMF「Primary Commodity Prices」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。物価指数は H22=100。

企業物価指数 (前年同月比 (%))

	H25年10月	11月	12月
国内企業物価指数	2.5	2.6	P 2.5
輸出物価指数	12.4	12.5	P 12.4
輸入物価指数	16.6	17.1	P 17.6

原油価格 (WTI)

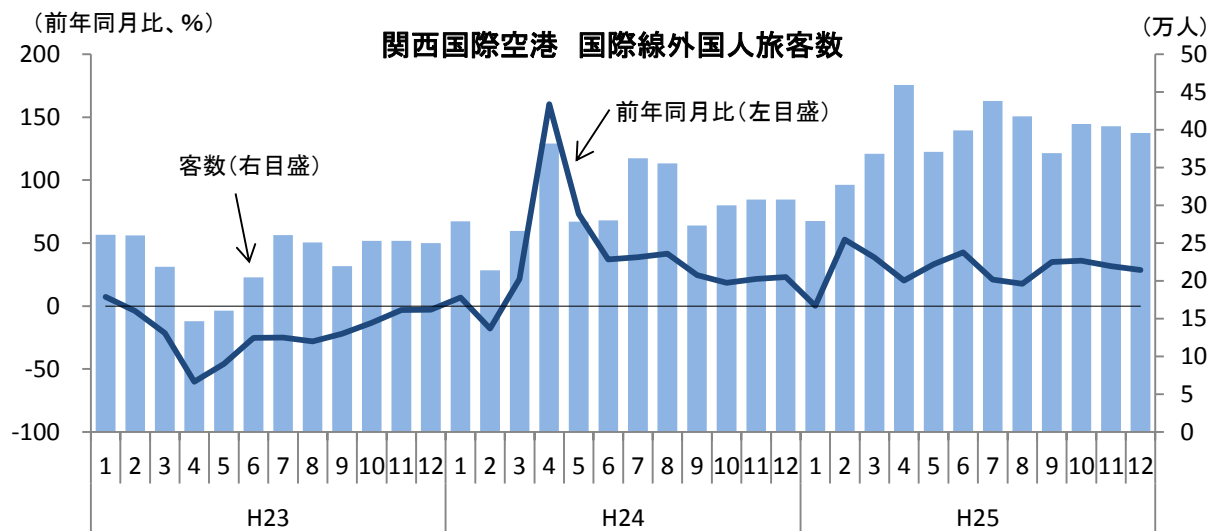
	H25年10月	11月	12月
ドル/バーレル	100.50	93.81	97.90

国内企業物価指数の前月比変化に寄与した
主な類別・品目 (12月速報、寄与度(%))

石油・石炭製品 (0.14) : ガソリン、軽油、
灯油、A重油、液化石油ガス
農林水産品 (0.05) : 豚肉、鶏卵
非鉄金属 (0.04) : 銅地金
化学製品 (0.04) : ベンゼン・キシレン

[その他] 観光

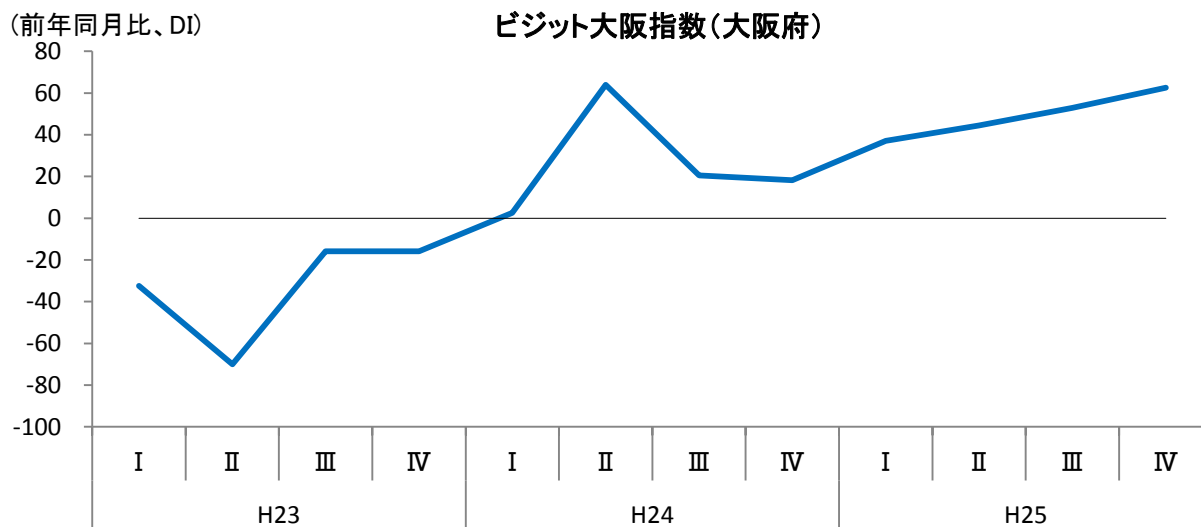
○関西国際空港 国際線外国人旅客数【22ヶ月連続で増加】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」

	H25年10月	11月	12月
万人	40.8	P 40.5	P 39.6
前年比(%)	35.9	P 31.7	P 28.8

○ビジット大阪指数(DI)【前年同期比で、10～12月期は前回調査より上昇。】



(資料)大阪府都市魅力・観光課「大阪府観光統計調査」

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

	H25年 4～6月	7～9月	10～12月
業況判断DI (前年同期比)	44.4	52.9	62.5